

赤松小三郎没後150年記念

講演会「赤松小三郎関係史料を読む」ご案内

(暗殺された赤松小三郎 ～ 幕末に日本近代化のグランドデザインを描いた男)

上田高等学校関東同窓会 赤松小三郎研究会

会長 丸山 瑛一

幕末、信州上田藩士赤松小三郎は、京都で開いた洋学塾などで多くの英才を育てるとともに、わが国の近代化に向けてのグランドデザインを描きその実現に力を尽くしました。赤松は、1867年（慶応3年）37歳で志半ばにして暗殺されましたが、その先進的な政治思想と優れた洋学の教えは日本の近代化に大きく貢献しました。

当研究会では、今回、元上田市立博物館長で、上田藩の歴史に詳しく、また、赤松小三郎についても研究された歴史研究家の寺島隆史氏をお迎えし、上田藩と赤松小三郎についてお話を伺います。

幕末史に関心をお持ちの多くの皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

日時：平成29年9月10日(日) 講演 13:30～15:30 (受付開始 13:00)

会場：文京区民センター 3階 A-会議室 (案内図ご参照)

参加費：1,000円 (当日会場受付にて申し受けます)

対象：幕末の歴史にご興味ある方であれば、どなたでも大歓迎です

定員：200名 (先着順 お早めにお申し込みください)

主催：上田高等学校関東同窓会 赤松小三郎研究会

講師：寺島隆史(てらしま たかし)氏



歴史研究家、東御市文化財保護審議会会長、上田女子短期大学非常勤講師、元上田市立博物館長、東信史学会常任理事。

著書『郷土の歴史上田城』等、共著『上田市誌』『望月町誌』

『真田幸村のすべて』等、論文「永祿の武田将士起請文と岡城」

「武田氏滅亡後の室賀氏の動静と真田昌幸」等。長野県東御市在住。

演題：「赤松小三郎関係史料を読む」

・赤松小三郎横死に関わる、知られていない上田藩庁文書を読み解く。

■お申込み、お問合せ

赤松小三郎研究会事務局 (事前のお申し込みをお願いいたします)

Eメール：kannazuki-6318@kxb.biglobe.ne.jp

電話：070-2685-2384 (事務局 小山)

赤松小三郎(天保2年(1831年)～慶応3年(1867年))

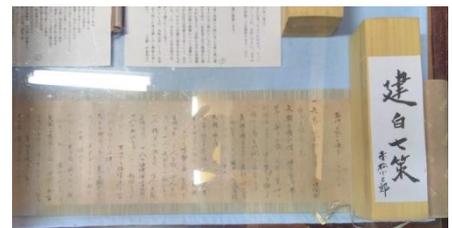
幕末の信州上田藩士。江戸に出て内田弥太郎、下曾根金三郎に師事し、数学、天文、測量、暦学、蘭学、砲術を学ぶ。その後、勝海舟の侍として長崎海軍伝習所で、航海術を学ぶ。さらに横浜で英国士官アブリンから英語、英国兵法などを習う。

幕末の京都で開いた私塾や薩摩藩邸などで洋式兵学を教えた。諸藩より学ぶ門下生の数、800余名。その中には東郷平八郎元帥、上村彦之丞大将など日清、日露戦争で活躍した諸将が含まれる。薩摩藩島津久光侯の委嘱により「重訂 英国歩兵練法」を翻訳した。

慶応3年5月、前政事総裁職・前福井藩主の松平春嶽侯、島津久光侯、幕府に建言した「建白七策」は、将来の政体構想と国家のグランドデザインを描いたもので、政治史のなかで輝いている。天幕一和、諸藩一和のもと上下二局の議政局により内憂外患のこの時期を乗り切る方策を模索し、西郷隆盛などへの働きかけなど、最後まで東奔西走したが、明治維新直前の慶応3年9月、京都において薩摩藩士により暗殺された。享年37。上田市(上田城跡公園内)に赤松小三郎記念館がある。



上田市立博物館蔵



建白書複製 (赤松小三郎記念館)
原資料は鹿児島県歴史史料センター
黎明館蔵

■会場のご案内

文京区民センター
案内図



交通機関

- 地下鉄都営三田線・大江戸線 春日駅「A2」出口 徒歩2分
- 東京メトロ丸ノ内線 後樂園駅「4b」出口・南北線後樂園駅「6」出口徒歩5分
- JR 中央・総武線水道橋駅下車徒歩15分

所在地 〒113-0033 文京区本郷4丁目15番14号
電話 03-3814-6731